



コンサルタント部

波多野 衛さん(33歳)

Hatano Mamoru



子どもの頃からの夢を追って

クリスマスチャンである両親の影響で、お年玉を毎年ブラジルの貧困地域の幼稚園に寄付していましたので、子どもの頃から開発途上国を身近に感じていました。中学生の時には農業を通して途上国を支援しようと考えようになり、付属高校を経て東京農業大学に進学したのです。

大学では農産物の栽培から流通、農業経済、農業ビジネスなど農業の多岐にわたる分野を学びました。在学中に開発コンサルタントという職業を知りましたが、高い専門性と相応の業務経験が必須であることも分かり、卒業時には食品専門の商社への就職を選択しました。そこでは主に品質管理を担当し、

世界中の農産物流通の現状を知ることができました。その時の経験は今でも大きな財産です。

仕事は順調でしたが、途上国での農業開発という夢は忘れず、在職中も国際協力関係のセミナーに出席したり、英語の勉強を続けたりしていました。7年後に一念発起して退職し、英国のイーストアングリア大学大学院に進学しました。結婚もしていましたので、いわば背水の陣でした。そこでは農業開発（自然科学系）と農村開発（社会科学系）を学びました。学業に専心するだけでなく、多くの人の出会いを大切にすることをモットーとしていました。大学院修了を目前にして、日本のさまざま

Career Path

- | Age | Event |
|-----|------------------------------------|
| 23 | 東京農業大学を卒業後、食品専門商社入社 |
| 29 | 退職し、イーストアングリア大学大学院（英）で農業開発・農村開発を学ぶ |
| 30 | タスクアソシエーツに入社。開発コンサルタントとして活躍中 |

Point

未来を信じる人々の懸け橋となる仕事を



1990年の設立以来、タスクアソシエーツは国際協力機構（JICA）や外務省が発注する調査や技術協力のプロジェクトにコンサルティング・サービスを提供してきた。農業開発・農村開発を中心として、多岐にわたる分野で実績を積み上げてきている。

グローバル化の進展に伴い開発途上国も国際社会への参加が求められている中で、同社の基本認識は、単に効率性を追求するのではなく、そこに暮らす人々の生活や環境を考慮した上で進められる必要があるというものである。そのため、社員個々の専門的な能力を高め、長期的、総合的、国際的視野を必要とした幅広い領域に渡る業務に対応することを推進してきた。

同社は業務の拡大に伴い、専門性と実務経験を有する人材を募集している。吉野代表は、「基本的にやる気のある人を歓迎します。経験や知識よりも人物本意です。もし資格が足りなければ、働きながら学べば良いでしょう」と話す。同社の業務や社風に関心がある人の積極的な応募を待っている。



company data

株式会社 タスクアソシエーツ

TASK Co., Ltd.

〒156-0043 東京都世田谷区松原 2-42-9 美鈴 Nビル 501 号

設立 1990年3月 資本金：1,300万円

従業員数：11人（2015年4月現在）

代表者 代表取締役 吉野治伸

事業分野 地域開発／農村開発、貧困対策、住民参加促進、農業開発、組織育成、農業経営、作物栽培、農業機械、農産物収穫後処理、農産物流通、アグリビジネス、農産廃棄物・副産物利用、農業普及など

recruitment

新卒採用：なし 中途採用：あり

募集職種：開発コンサルタント（農業・農村開発、地域開発、収穫後処理、農畜産物加工、農産物流通等、事業分野に関係する職種）

募集人数：若干名

TEL：03-6379-2083 FAX：03-6379-2084

E-mail：hatano@task-a.jp または akiyama@task-a.jp

URL：http://www.task-a.jp/index.html



ガーナで企業経営者にセミナーを開講

まなコンサルティング企業にコンタクトし、その中から本来の専門である農業開発を主軸している当社に出会い、入社に至りました。入社3年目ですが、これまでの業務の中心はガーナの「小規模農業機械化促進」プロジェクトで、国際協力機構（JICA）の専門家として派遣され、今年8月まで従事しました。プロジェクトの目的は、農業機械を所有する企業が有料で農地を耕し、収穫の増えた農民から料金を得るといったビジネス・モデルをうまく回転させることでした。企業は約20社が対象で

したが、事業経営を理解していない経営者も多く、機械も老朽化していて、収益化は一筋縄ではいきません。農民側も機械を入れるタイミングの判断が効果的にできていないなど、今後もさまざまな指導が必要な状況です。開発コンサルタントとして第一歩を踏み出したばかりですが、現場では予期しない出来事の連続であるということを感じます。それでも、これまでの知見を生かして、途上国の人たちのために少しでも役に立つ存在になりたいと日々精進しています。